

中央小学校 図書室からのお知らせ (3)

今週も図書室からおすすめの本を三冊お知らせします。

今週の本は、「いのち」や「しあわせ」について考えてみたい本です。

【 低学年のみなさんへ 】

「 どうぶつえんのじゅうい 」

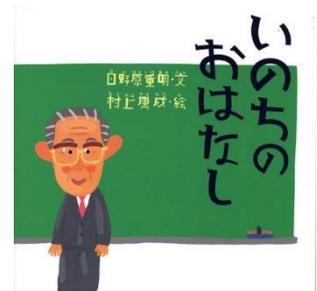


2年生の国語では、「たんぽぽのちえ」や「どうぶつえんのじゅうい」といったせつめいぶんをがくしゅうします。がっこうのとしよしつにも、「びょうきやけがをなおすしごと」や、「あかちゃんをまもるしごと」など、どうぶついのちをまもるために、いっしょうけんめいにしごとをしているおいしゃさんの本があります。

ほかにも、「たべものをつくるしごと」「ゲームをつくるしごと」「スポーツのしごと」など、しごとの本もたくさんおいてるので、また、としよしつにみにきてくださいね。

【 中学年のみなさんへ 】

「 いのちのおはなし 」



みなさんは、「いのちってなんでしょう?」と聞かれたら、なんと答えますか? しんぞうが動いていること? おなががすくこと?

2017年に105才で亡くなった日野原重明さんは、数多くの人々の命を救ってきたお医者さんで、これは子どもたちに向けて行った「いのちの授業」について書かれた本です。

今はなかなか学校にも行けず、友だちともあえないというガマンの多い日々ですが、それでも少しずつ命の時間を大切に過ごす工夫ができるといいですね。

【 高学年のみなさんへ 】

「 世界でいちばん貧しい大統領からきみへ 」



中南米のウルグアイという国で、4年間大統領を務めたホセ・ムヒカさんについて書かれた本です。

民主主義などについて少し難しい言葉で書かれているところもありますが、「子ども時代はもっとも幸福な時期」「子どもの時にたっぷり生きてこそ、知恵と人格のある大人になれるんだ」と、人生の時間の大切さを伝えています。

「ゆたかさというのは、ほしい物がどんどん手に入るゆうふくな社会のことでしょうか?」と問う、2012

年の国連会議でのスピーチだけをまとめた絵本もあります。